

## 会議録

会議名	第2回 高尾エリア観光振興会議	
日時	平成20年7月22日(火) 午後6時30分～ 午後8時30分	
場所	東浅川保健福祉センター4階 第4集会室	
出席者氏名	委員	岡本伸之(会長)、宮瀬睦夫(副会長)、古本泰之、水口和也、木下昇、小泉暁、渡邊一夫、小阪弘、田島章、中村侑子、岡部武次、金指征治、井上郁子
	事務局	原田親一観光課長、森田隆俊主査、池ノ谷洋一主事
欠席者氏名	なし	
議題	高尾エリアの観光まちづくりについて	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	なし	
配付資料名	高尾山さわやかマップ、高尾山イベント一覧表、高尾エリア周辺観光資源一覧	

### < 会議の内容 >

- < 事務局 >        本日、会長が遅参のため、本会議の設置要綱第4条3項より、副会長が職務を代理することになる。本日の議事進行は会長が到着するまで副会長が代理で進行する。
- < 副会長 >        次第に基づき第1回会議の議事録の確認について事務局より説明を願う。
- < 事務局 >        第1回会議録について、訂正箇所がある。  
(議事録3ページ目の副会長の発言について訂正を説明)  
後日訂正したものを郵送する。
- < 副会長 >        議事録は公開ではないのか。発言者の名前を記載するのか。
- < 事務局 >        発言者については、名前を掲載しないこともできるので掲載しない。
- < 副会長 >        発言等で訂正がある方は、事務局まで伝えてほしい。

## ○会議の公開について

< 事務局 > 審議会については、公開が原則となっている。例外は個人情報等を扱う場合なので、本会議は公開となる。

本来、公開か非公開かは会に諮ることになるが、第1回目の会議は顔合わせ的なこともあり、諮らなかった。今回は具体的な議論となるので公開となるが、会長と事前に調整し、公開の判断としている。

会議の公開にあたっては、会議の開催日等を事前公表し、市内の図書館で閲覧やホームページでの公開等を行う。会議の当日は傍聴席を設け、委員と同じ会議資料を用意している。

今後については公開を前提とすることを委員の皆様にご了承いただきたい。

< 副会長 > 会議の公開の件について、何か問題はありますか。

< 各委員 > (一同承認)

## ○議題 高尾エリアの観光まちづくりについて

< 事務局 > 本日の配布資料(高尾山さわやかマップ、高尾山イベント一覧表、高尾エリア周辺観光資源一覧)について説明

< 副会長 > この一覧表について、事務局としては観光資源として考えているのか。

< 事務局 > この資料は参考資料として配布した。  
高尾山に訪れた人が次に高尾周辺のエリアを回遊するため再び訪れる。そういったエリア毎の観光資源になるものを取り上げた。

< 委員 > 高尾山から周辺観光地へ回遊するという事は現状難しい。観光施設自身が呼び込む気がなければ無理である。

また、一覧表には金南寺、高楽寺等掲載されているが、人がたくさん来て、先方に迷惑がかかることはないのか。確認等を行っているのか。

< 事務局 > 高尾山に来た人が高尾の周辺エリアに目を向けてもらうことが前提である。

今回作成した一覧表については、確認をとっているわけではない。人が来過ぎて困る部分もあるが、観光スポットとして観光の仕方を促すことも大事である。

- < 委員 > お寺には観光寺と檀家寺がある。高楽寺は檀家寺である。環境整備がされない限り、受け入れることはできない。商売家とそうでないところを把握すべき。人を呼び込むのであれば、多摩森林科学園、武蔵陵墓地といった施設の責任者がこの会議に出席すべきである。
- < 事務局 > 大規模施設の責任者の出席について、武蔵陵墓地を所管する宮内庁に出席をお願いしたが、断られた経緯がある。
- < 副会長 > 他の方の意見はありませんか。
- < 委員 > 確認を取るのは後でも良いのではないか。まずは観光資源を把握して1つ1つあたっていくことが大事。  
武蔵陵墓地は保守的であるので、なかなか難しいこともあるが、市民としては多くの人に知ってもらいたい。
- < 副会長 > 御陵はいつでも入ることができる。来た人が周辺で食事をできる場所があるとか、そういった整備が必要。
- < 委員 > 旅行会社の企画で、高尾山を登ってからうかい亭等へいくコースがあった。市内のホテルに宿泊してから高尾山を訪れる企画もある。ビアガーデンも様々な企画とタイアップしている。  
このエリアもポイントを決めて、それぞれに合った名称にしてもいいのではないか。
- < 委員 > ツアーを企画するには、作り手が知らない場所はなかなか作れない。作り手に認知させるために、たとえば山梨県の河口湖町は、日常から町が積極的に各旅行会社にセールス活動をし、最新情報の告知活動をおこなっている。
- < 副会長 > 旅行者はあまり知られてないところへ行きたいと思う。つまり宝探しである。  
一覧表で示されたエリア内で、行きたいと思われるところはあるか。ツアー的に可能なエリアは。
- < 委員 > 旅行会社がツアーを募集するには、実は<ブランド>や<ブーム>があると集客しやすい。それらが無い場所を販売しようとする場合には、かなりの宣伝広告費をかけなくてはならないこともある。そうなるとなかなか採算が合わなくなりツアーとして組むのが難しくなるという現実がある。

- < 副会長 > 観光協会で行っているミニバスツアーは収益的にどうなのか
- < 委員 > 現在、収益的には五分五分である。
- < 副会長 > 宝探しといえども、この資源一覧表は、観光資源としては成り立たないかもしれない
- < 委員 > この一覧表に掲載されているものはスキャンされたものではないのか。
- 会長が到着したため、以後議事進行は副会長に代わって、会長が行う。
- < 会長 > 懇談会で既にゾーンとポイントの枠組みがあがっている。白紙ではないので、懇談会の結論の延長線上で考える。
- 観光振興の基本原理は、「知らせて、見せて、また来たいと思わせること」である。宝探しでは宝を磨くことも大事である。
- また来たいと思わせるホスピタリティが必要である。
- ウォーキング・フォー・プレジャーで磨ける宝を探す必要がある。
- この会議で点検する必要がある。
- パッケージで売る検討ではなく、まずは宝を見つけること。それを「知らせて、見せる」ことが大事である。
- 乗り降り自由のコインバスを考えたらどうか。団体ではなく個人単位で考える。
- < 委員 > 武蔵陵と食事のセットがあれば良い。
- < 委員 > 高尾山は年間250万人の来山者がある。高尾山への交通手段は何が多いのか。
- 高尾山と周辺観光地をセットは歩いていくのでは難しい。そこで高尾山への来山者にアンケート等を行えないか。そういった情報を元に客の動向を掴むのが重要である。
- < 委員 > 高尾山への来山者が250万人というが実数はわからない。京王電鉄の乗降者が100万人くらい、車を含めても150万くらいではないだろうか。
- 先ほどの富士吉田市の件ではないが、市や観光協会はパブリシティに力をいれていくべきである。市内のお祭りや花の名所等と絡めて毎年、告知していくべきである。また、市だけではなく、受益者負担と言う形で様々な団体も活用していくべきである。

- < 会長 > カナダでの話したが、出国する人にバッジを渡し、PRしている。八王子市でも市民に配り、市外で八王子を宣伝してもらおうアイデアもある。また、観光資源を時間軸で整理して、周知できないだろうか。
- < 委員 > 資源一覧のAゾーンの峰尾豆腐店だが、現在でも十分人気がある。さらに呼び込むという考えなのか。それでは、現場が対処できない。
- < 会長 > 地域の資源をもう一度再発見する。地域の宝探し探検隊のようなものを立ち上げたらどうか。
- < 委員 > 2月～3月は高尾梅郷の梅がPRできる。多摩森林科学園のさくらについても、高尾を訪れた人が多摩森林科学園に行くケースもある。四季と絡めてPRできる。
- < 会長 > 八王子市民（地元住民や子供達）が八王子の魅力を探すようなプログラムができないだろうか。そういった手段はどうしたらいいか。
- < 委員 > 既に出版されている「るるぶ八王子」のような冊子で八王子の魅力を確認できる。年齢層に分けてモニターツアーで傾向を掴む必要がある。
- < 会長 > 客層があつての資源である。クロスさせる必要がある。
- < 委員 > イベント等があるときは、1か月ぐらい前にプレリリースをすることをやる。ミニコミ紙は特に可能性が高いので有効活用すべきである。新聞やテレビ等はミニコミ紙より可能性は落ちるが市とかが行えば取り上げてもらえるケースもある。売り込むことが必要である。
- < 会長 > 知らせて、見せてということを行うには、運動体が必要になる。この会議自体は運動体ではないので、別に組織を作る必要が出てくる。例えば、八王子の観光振興協議会のようなもの作り、その下部組織として広報的なことを行っていくべきである。
- 市場別調査のようなものも必要である。現在は、中高年層がターゲットになると思われるが、ねらいを定めた戦略が必要である。集められたデータをもとに、最終的にこの会議としては、現在の観光協会や行政の役割を見直していくような提言を行っていくべきではないかと思われる。

- < 委員 > A～Cゾーンについてだが、歩いて、五感で楽しむといった時代においては楽しむことができるかもしれないと思う。ただ、季節という視点で見ると時期的な偏りがあるように思われる。
- 高尾山イベント一覧表についてだが、前回会議でも発言したが、体験型観光ということでは、8月と11月に高尾山薬王院で1泊2日で参加者が座禅や山伏の体験等を行う企画がある。こういったものを取り入れてほしい。
- 京王電鉄でも、毎年夏休みに子供を対象にした修行を体験できる企画を行っている。
- < 会長 > 1年中365日均等にお客さんに来てもらうということは難しい。オフシーズンは対策がない。オンシーズンにいろいろ組み合わせて選択肢を増やし魅力を高めていくのも一つの方法である。
- < 委員 > 現在高尾山はハイカーが増えている。山頂へ向かうハイカーは薬王院の境内を通過していくが、そういった人たちに対して、薬王院がどれだけ歴史のあるお寺かということをしてPRしていきたいと考えている。
- < 委員 > 先ほど、子供たちを対象にした1泊2日の体験企画の話があったが、そういったものを行ったことによる、効果みたいなのがわかると面白い。
- < 副会長 > 各ゾーンについてだが、ゾーンごとに散策ツアーのようなものを組んで、市で募集してみたらどうだろうか。魅力が感じられれば、参加者もあるだろう。湧水めぐりの時は、それなりに参加者もあり、地元の人が説明してくれたりして、新たな発見もあった。
- < 会長 > この会議の委員各自において、簡単でいいのでA4用紙1枚ぐらいで、レポートを出してみたらどうだろうか。市場や季節を意識しながら、こういった観光の宝を見落としたらまずいとか、気づきも含めて、今一度集約が必要ではないだろうか。
- < 副会長 > 先日、高尾山の森林ボランティアが半日程度かけ高尾駅南口周辺を歩く機会があったが、新たな発見があったと述べていた。
- < 会長 > そういった、経験が蓄積されて情報資源となっていくと理想的である。
- < 会長 > 八王子市で本格的に観光振興をやりだしたのはいつ頃か。

<事務局> 観光課が発足したのが5年前である。

<会長> 本日まだ、発言されてない方で何か意見がありますか。

<委員> 高尾山はリピータも多いが、高尾山以外で行きたいところを求めるケースもある。そういったときは、市で作ったマップ類を配っている。中には特に計画を立てずに来られるお客様もいて観光案内所はどこにあるのかと訪ねられるケースもある。観光協会は街中にあるので、駅員が答えるケースもある。さくらの時期とかは案内しやすいが、時期的には難しいときもある。

各ゾーンにおいては、主要となるスポットがないと難しい。小さいところは、それだけを目的に来ることは少ないと思われる。現在、事業として、高尾、八王子周辺だけでなく、中央線沿線で魅力を持つために、「中央線が好きだ。」というキャンペーンで駅周辺の住民に魅力を発見してもらっている。地元の宝というものの情報を集め、紹介していくようなことを1～2年かけて行っていく予定である。

<会長> 改札口を出たら案内所というのは世界の常識である。日本は遅れている。

<委員> インフォメーションセンターの機能として、改札業務だけでなくプラスで駅周辺の観光案内も行っている。東京は、他の自治体と比べてそういった部分は遅れていると認識している。

<会長> そろそろ終了時間を迎えますので、本日はここで会議を終了します。次回会議は、8月26日(火)を予定しております。  
本日はありがとうございました。